

- 問1 魚を卵からかえした稚魚などを、いけすなどで大きくなるまで人工的に育てて出荷する漁業を何といいますか。
- 問2 昔と比べて魚の生産量が減っている中で、養殖漁業がさかんに行われるようになった一番の理由は何ですか。
- 問3 農家の人々が集まって、農業のやり方を教え合ったり、農作物をまとめて売ったりする組織のことを何といいますか。
- 問4 農薬や化学肥料にたよらないで行う栽培方法を何といいますか。
- 問5 地産地消を行うことで、どのような良い効果がありますか。
- 問6 畜産のなかでも、特に乳牛を飼育し、牛乳やバターなどを生産する仕事を何といいますか。
- 問7 ビニールハウスなどの施設とあたたかい気候を利用して、ふつうよりも早い時期に野菜をつくり出荷する栽培方法を何といいますか。
- 問8 暖流と寒流がぶつかり、よい漁場となっているところを何といいますか。
- 問9 その土地の気候や風土に合わせて、より育てやすくおいしい農作物の種類を新しく作り出すことを何と言いますか。
- 問10 漁港でとれたばかりの魚が集められ、買い手が値段を決めるために「せり」を行う場所を何といいますか。
- 問11 群馬県や長野県の高原地域で、夏から秋にかけてキャベツやレタスをたくさん出荷しているのは、なぜですか。
- 問12 人工的に育てた稚魚を、ある程度の大きさになるまで守ってから海や川に放し、自然の中で成長させてからとる漁業のことを何といいますか。
- 問13 遠洋漁業の生産量が、1970年代から大きく減り続けている主な理由は何ですか。
- 問14 海の中に「いけす」などの施設を作り、魚や海そうを人の手で管理して育てる漁業のことを何といいますか。
- 問15 夏の涼しい気候などを利用して、野菜の育つ時期を普通よりも「遅らせて」栽培する方法を何といいますか。
- 問16 国や自治体が、魚の量や期間を制限するような「漁獲規制」を行う一番の目的は何ですか。
- 問17 標高が高く、夏でもすずしい気候を利用して、キャベツやレタスを育てる農業を何といいますか。
- 問18 林業において、木と木の間隔を広げて日光が地面まで届くようにし、木の成長を助けるための作業を何といいますか。
- 問19 漁港の近くに「加工工場」があることで、どのような良さがありますか。